

平成28年度

全国学力・学習状況調査における
香美町の調査結果のまとめ（概要）

- 1 調査の概要
- 2 本町の状況
 - (1) 教科に関する調査の状況
 - ア 小学校に関する状況
 - イ 中学校に関する状況
 - ウ 教科ごとの調査の状況
 - (2) 児童生徒質問紙・学校質問紙に関する調査の状況
 - ア 主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導の改善に向けた取組状況から
 - イ 教職員の資質能力向上の取組状況から
 - ウ カリキュラムマネジメントの取組状況から
 - エ 小中連携の取組状況から
 - オ 学習評価の在り方から
 - カ これまでの回答状況の変化から
- 3 今後の取組の方向性について

平成28年12月

香美町教育委員会

1 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、香美町における児童生徒の学力や学習状況を分析・把握し、香美町の教育施策の成果や課題を検証し、その改善を図るとともに、各小・中学校における児童生徒への教育指導の充実や学習・生活状況の改善等に役立てることを目的とする。

なお、本調査において測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面である。

(2) 実施期日 平成28年4月19日(火)

(3) 調査実施校数及び人数

- ・小学校6年生：10校 158人（「算数B」、「児童質問紙」は157人）
- ・中学校3年生：4校 149人

(4) 調査内容

ア 教科に関する調査（国語、算数・数学）

(ア) 主として「知識」に関する問題（A）

(イ) 主として「活用」に関する問題（B）

イ 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

(ア) 児童生徒に対する調査

(イ) 学校に対する調査



2 本町の状況

(1) 教科に関する調査の状況

【調査結果の分析の基準】

全国平均正答率を基準とした時の割合	全国と比較した時の表現
+5.1%以上	上回る
±5.0%以内	同程度
-5.1%以下	下回る

ア 小学校に関する状況

教科等		香美町の結果
国語	A（知識）	同程度
	B（活用）	同程度
算数	A（知識）	同程度
	B（活用）	同程度

イ 中学校に関する状況

教科等		香美町の結果
国語	A（知識）	同程度
	B（活用）	同程度
数学	A（知識）	同程度
	B（活用）	同程度

【調査結果の概要】

- 香美町の正答率は、全国と比較して、いずれの教科においても小学校、中学校とも「同程度」である。同基準により兵庫県と比較した場合も「同程度」である。
- 「主として知識」（いわゆるA問題）と「主として活用」（いわゆるB問題）との正答率を比較した時、「主として知識」の正答率の方が、「主として活用」を上回り、昨年度までの調査と同様の傾向を示している。

ウ 教科ごとの調査の状況

【調査結果の概略】

◇小学校◇

（国語）

- ・正答、誤答、無解答の各割合とも国と同様の傾向を示している。
- ・平仮名で表記されたものをローマ字で書く問いに対してやや課題がある。

（算数）

- ・数量関係の領域の問いに対してやや課題が見られる。
- ・数量や図形について理解したり、理由を記述したりする問いにやや課題が見られる。

◇中学校◇

（国語）

- ・国の正答率を上回って回答している問いが多く見られる。
- ・評価の観点では、「読む能力」において正答率が高い傾向が見られる。

（数学）

- ・図形の領域の問いに対して良好な傾向が見られる。
- ・誤答や無解答の傾向は国と同様の傾向が見られる。
- ・評価の観点において、「数学的な技能」に関する問いに対してやや課題がある。

全国の正答率を上回って解答している「問い」について

◆小学校

〔国語A〕

出題の趣旨	問題番号、内容等
・学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む。	1-1-1 今日は全国的に <u>快晴</u> だ。
・学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く。	1-2-3 先生に <u>そう</u> だんする。

〔国語B〕

該当なし



〔算数A〕

出題の趣旨	問題番号、内容等
・除数と被除数に同じ数をかけても商は変わらないことを理解している。	1-(2) $2.1 \div 0.7 = \text{ウ}$ ↓10をかける ↓10をかける $\text{ア} \div 7 = \text{イ}$ 上のア, イ, ウに入る数を書きましょう。

〔算数B〕

該当なし



◆中学校

〔国語A〕

出題の趣旨	設問の概要、問題番号等
・伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く。	4-2 「北極点と南極点では、どちらの平均気温が低いのか。」という問いに対する答えが明確になるように適切な言葉を書く。
・文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えたり、構成や展開について自分の考えをもつ。	6-1・2 略
・話の展開などに注意して聞き、自分の考えと比較する。	7-1 略

・奥付の特徴や役割を理解する。	8-1 奥付の特徴を説明したものとして適切なものを選択する。
・文脈に即して漢字を正しく書く。	9-1-2 今までにない <u>ドクソウ</u> 的な考えだ。

〔国語B〕

出題の趣旨	設問の概要、問題番号等
・文章の中心的な部分と付加的な部分とを読み分け、要旨を捉える。 ・文章の構成や表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書く。	1-1・3 略
・本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く。	3-3 略

〔数学A〕

出題の趣旨	問題番号、内容等
・分数と少数の乗法の計算ができる。	1-(1) $2/5 \times 0.6$ を計算しなさい。
・ある基準に対して反対の方向や性質をもつ数量が正の数と負の数で表されることを理解している。	1-(4) 略
・数量の関係を文字式に表すことができる。	2-(1) ある数を3でわると、商がaで余りが2になります。ある数を、aを用いた式で表しなさい。
・具体的な場面で数量を表す式を、等式の性質を用いて、目的に応じて変形できる。	2-(4) 底辺の長さa cm、高さh cmの平行四辺形の面積S cm ² は、次のように表されます。 $S = ah$ この式を、hについて解きなさい。
・簡単な一元一次方程式を解くことができる。	3-(1) 一次方程式 $x + 12 = -2x$ を解きなさい。
・見取図に表された立方体の角の大きさの関係を読み取ることができる。	5-(3) 略

・三角形の合同条件を理解している。	7－(1) 略
・証明の必要性と意味を理解している。	8 略
・一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合が一定で a の値に等しいことを理解している。	10－(2) 一次関数 $y = 3x - 2$ の変化の割合を求めなさい。

[数学B]

出題の趣旨	問題番号、内容等
・付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明することができる。	4－(2) 略
・資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。	5－(1) 略

全国の正答率を下回って解答している「問い」について

◆小学校

[国語A]

該当なし

[国語B]

該当なし



[算数A]

出題の趣旨	問題番号、内容等
・除数が1より小さいとき、商が被除数より大きくなることについて理解している。	1－(1) $\square \div 0.8$ の商の大きさについて、正しいものを一つ選ぶ。
・直方体における面と面の位置関係を理解している。	7 略
・全体の大きさに対する部分の大きさを表す割合の意味について理解している。	8 略
・示された場面を適切に読み取り、全体の人数を求める式に表すことができる。	9－(1) 略

<ul style="list-style-type: none"> 1 を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係を理解している。 	<p>9 - (2)</p> 
--	---

[算数B]

出題の趣旨	問題番号、内容等
<ul style="list-style-type: none"> 示された式に数値を当てはめて、目標のタイムを求めることができる。 	<p>2 - (2) 略</p>
<ul style="list-style-type: none"> 示された事柄について、二つの表を基に読み取ることができない事柄を特定することができる。 	<p>4 - (2) 略</p>
<ul style="list-style-type: none"> グラフから貸出冊数を読み取り、それを根拠に、示された事柄が正しくない理由を記述できる。全体の大きさに対する部分の大きさを表す割合の意味について理解している。 	<p>4 - (3) 略</p>

◆中学校

[国語A]

該当なし

[国語B]

該当なし



[数学A]

出題の趣旨	問題番号、内容等
<ul style="list-style-type: none"> 具体的な場面における数量の関係を捉え、比例式をつくることができる。 	<p>3 - (3) 略</p>
<ul style="list-style-type: none"> 対称移動した図形をかくことができる。 	<p>4 - (2) 略</p>
<ul style="list-style-type: none"> 比例の式について、x の値の増加に伴う y の増加量を求めることができる。 	<p>9 - (2) 比例 $y = 2x$ について、x の値が 1 から 4 まで増加したときの y の増加量を求めなさい。</p>

<p>・測定値が与えられた場面において、近似値と誤差の意味を理解している。</p>	<p>1 2 - (2)</p> <p>(2) ある郵便物の重さをデジタルはかりで測ったところ、30.2 gと表示されました。この数値は小数第2位を四捨五入して得られた値です。この郵便物の重さの真の値を a g としたとき、a の範囲を不等式で表したものととして正しいものを、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。</p> <p>ア $30.15 < a < 30.25$</p> <p>イ $30.15 \leq a < 30.25$</p> <p>ウ $30.15 \leq a \leq 30.24$</p> <p>エ $30.15 < a \leq 30.24$</p> 
---	--

[数学B]

出題の趣旨	問題番号、内容等
<p>・与えられた情報から必要な情報を選択し、数学的に表現することができる。</p>	<p>5 - (2)</p> <p>略</p>



(2) 児童生徒質問紙・学校質問紙に関する調査の状況

【分析の視点】

- 次期学習指導要領改訂に向けた国の動向等を踏まえ、今回新たに追加された項目などを中心に分析をすすめ、今後の取組に生かせるものとする。
- 香美町独自の取組等との関わりにおいて、対応した項目の分析をすすめ、今後の取組に生かせるものとする。

ア 主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導の改善に向けた取組状況から 〈分析1〉

〔児童生徒への質問〕(小・中学校とも47番 新規)

5年生まで(1,2年生のとき)に受けた授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか。※()内は中学校

【香美町の状況】

- ・児童の回答は「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」をあわせると、80%を超えている。また、生徒の回答も70%を超えている。
- ・上記のように肯定的な回答をした児童生徒の方が、国語、算数(数学)とも正答率が高い傾向にある。

〔学校への質問〕(小・中学校とも20番 新規)

調査対象学年の児童(生徒)は、自らが設定する課題や教員から設定される課題を理解して授業に取り組むことができていると思いますか。

【香美町の状況】

- ・小学校、中学校の回答とも「そのとおりだと思う」、「どちらかといえば、そう思う」をあわせると90%以上を占めている。
- ・中学校の回答は「どちらかといえば、そう思う」が最も多い。
- ・学校は上記のように肯定的に回答していても、児童生徒の中には一定の割合で、そう捉えていない者もみられる。

<分析2>

〔児童生徒への質問〕（小・中学校とも52番 新規）

5年生まで（1，2年生のとき）に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか。 ※（ ）内は中学校

【香美町の状況】

- ・児童の回答は「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」をあわせると、70%を超えており、全国よりも高い。一方、生徒の回答は50%弱に留まり、全国よりも低い。
- ・上記のように肯定的な回答をした児童生徒の方が、国語、算数（数学）とも正答率が高い傾向にある。特に、児童の回答においては国語、算数ともB問題において顕著である。

〔学校への質問〕（小・中学校とも21番 新規）

調査対象学年の児童（生徒）は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか。

【香美町の状況】

- ・小学校、中学校の回答とも「そのとおりだと思う」、「どちらかといえば、そう思う」をあわせると70%程度である。
- ・小学校、中学校とも「どちらかといえば、そう思う」という回答が最も多い。
- ・学校は上記のように肯定的に回答していても、児童生徒の中には一定の割合で、そう捉えていない者もみられる。特に、全国と同様に中学校において高い傾向にある。

<分析3>

〔学校への質問〕（小・中学校とも44番 継続〔平成27年度37番〕）

調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、授業において、児童（生徒）自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか。

【香美町の状況】

- ・昨年度調査からの経年比較で見ると、小学校、中学校とも「どちらかといえば、行った」が増加しており、このような学習活動が徐々に定着しつつあると言える。
- ・一方で、小学校、中学校とも「あまり行っていない」と回答した学校の割合が20%程度あることが課題である。
- ・学校はそのような取組を行っていても、「そのような活動ができていない」と捉えている児童生徒が、一定の割合で存在する。特に、全国と同様に中学校において高い傾向にある。

イ 教職員の資質能力向上の取組状況から

<分析4>

〔学校への質問〕（小学校101番 中学校99番 新規）

校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っていますか。

【香美町の状況】

- ・「よくしている」と回答した学校は小学校80%、中学校100%であり、全国と比べてもかなり高い。

〔学校への質問〕（小学校107番 中学校105番 新規）

児童（生徒）自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか。

【香美町の状況】

- ・上記のように学習活動を学ぶ学習指導の改善に関する研修については、「あまりしていない」と回答をした小学校が20%程度存在する。

ウ カリキュラム・マネジメントの取組状況から

<分析5>

〔学校への質問〕（小・中学校とも31番 新規）

教育課程表（全体計画や年間指導計画等）について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか。

【香美町の状況】

- ・「よくしている」、「どちらかといえば、している」をあわせると、小学校90%、中学校100%であり、全国と比べてもかなり高い。

〔学校への質問〕（小・中学校とも34番 新規）

指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか。

【香美町の状況】

- ・「よくしている」、「どちらかといえば、している」をあわせると、小学校、中学校とも100%であり、全国と比べても高い。

エ 小中連携の取組状況から

<分析6>

〔学校への質問〕（小学校81番 中学校80番 新規）

前年度までに、近隣等の中学校（小学校）と、意見を交換し合うなど、
教員同士の交流を行いましたか。

【香美町の状況】

- ・「よく行った」、「どちらかといえば、行った」をあわせると、小学校で90%、中学校では100%の学校が取り組んでいると回答している。

〔学校への質問〕（小学校82番 中学校81番 新規）

前年度までに、近隣等の中学校（小学校）と、教科の教育課程の接続
や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を
行いましたか。

【香美町の状況】

- ・「よく行った」、「どちらかといえば、行った」の肯定的回答は、小学校、中学校とも50%程度に留まる。

〔学校への質問〕（小学校83番 中学校82番 新規）

平成27年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等
の中学校（小学校）と成果や課題を共有しましたか。

【香美町の状況】

- ・小学校では「よく行った」、「どちらかといえば、行った」の肯定的回答は30%程度に留まっている。一方、中学校では80%弱が「どちらかといえば、行った」と回答している。



オ 学習評価の在り方から

<分析7>

〔学校への質問〕（小・中学校とも54番 新規）

前年度までに、国語や算数（数学）において、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の製作等の多様な活動に取り組みさせることにより、ペーパーテストの結果に留まらない、多面的な評価を行いましたか。

【香美町の状況】

- ・多面的な評価については、一定の定着状況にあるが、「あまり行っていない」と回答した学校が小学校で10%存在する。
- ・中学校では、「よく行った」、「どちらかといえば、行った」を合わせると100%である。

<分析8>

〔学校への質問〕（小・中学校とも55番 新規）

前年度までに、国語や算数（数学）において、一人一人の学びの多様性に応じて、学習過程における形成的な評価を行い、児童（生徒）の資質・能力がどのように伸びているかを、児童（生徒）自身が把握できるような評価を行いましたか。

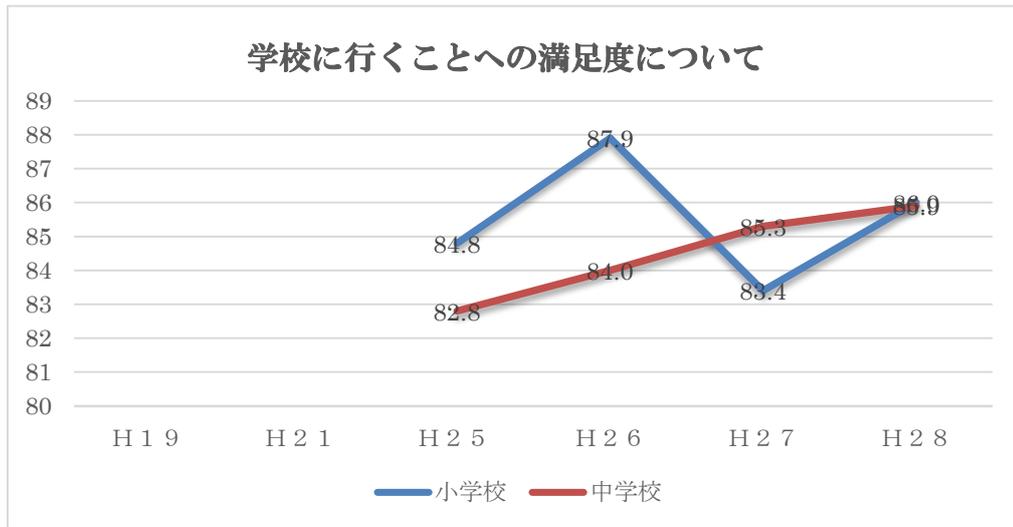
【香美町の状況】

- ・学習過程における形成的な評価は、30%の小学校で「あまり行っていない」と回答をしており、評価方法としての定着状況に課題がある。
- ・中学校では、「よく行った」、「どちらかといえば、行った」を合わせると100%である。



カ これまでの回答状況の変化から

① 【学校に行くことについて】（学校満足度関連） ※縦軸の単位は%、以下同様



○多くの児童生徒が「学校に行くのが楽しい。」と答えている。特に、中学校生徒において、徐々に増えつつある。

○「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」と答えている児童生徒が一定割合いる。

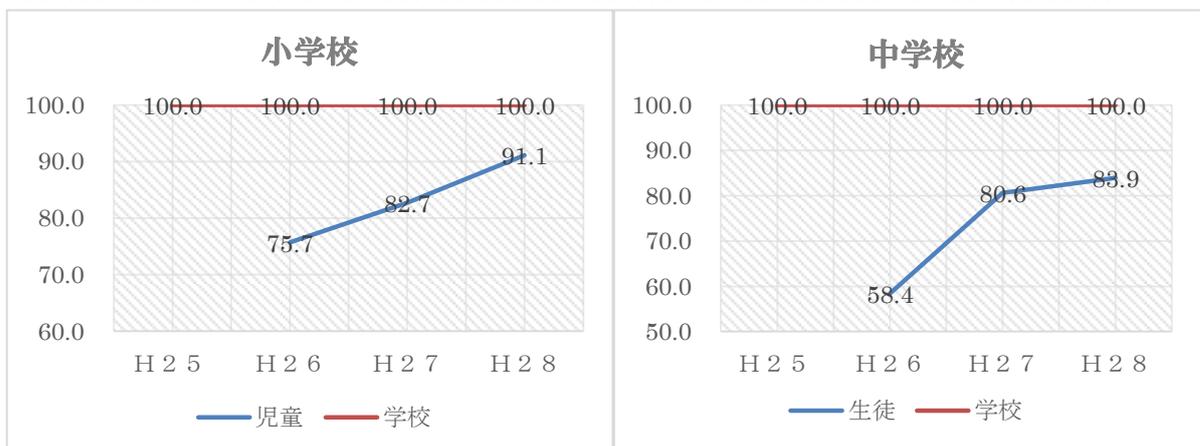
(参考)

第2次香美町総合計画における施策指標では…

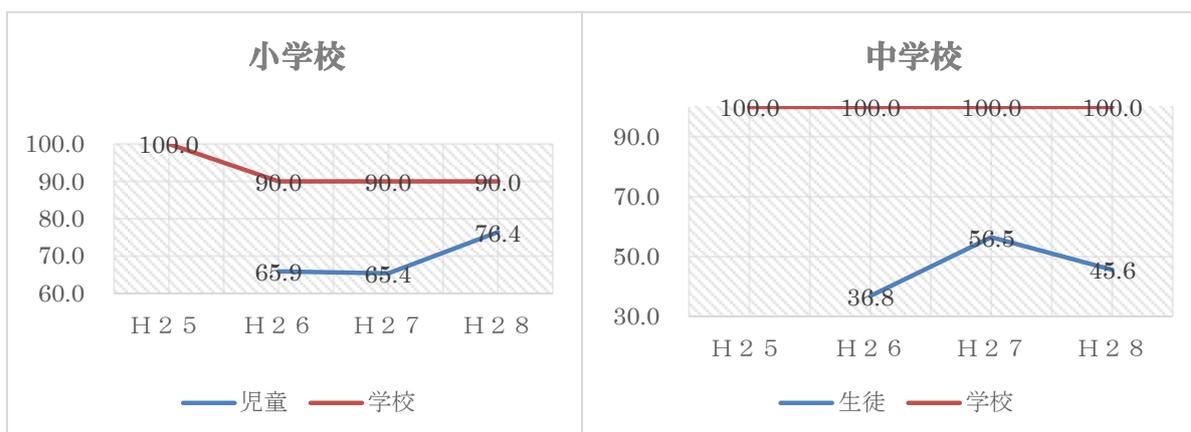
	平成32年度
小学6年生	93%
中学3年生	89%

② 【「見通し・振り返り」学習活動の状況について】（授業改善関連）

☆授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を取り入れている学校の割合と、目標が示されていると思う児童生徒の割合の推移

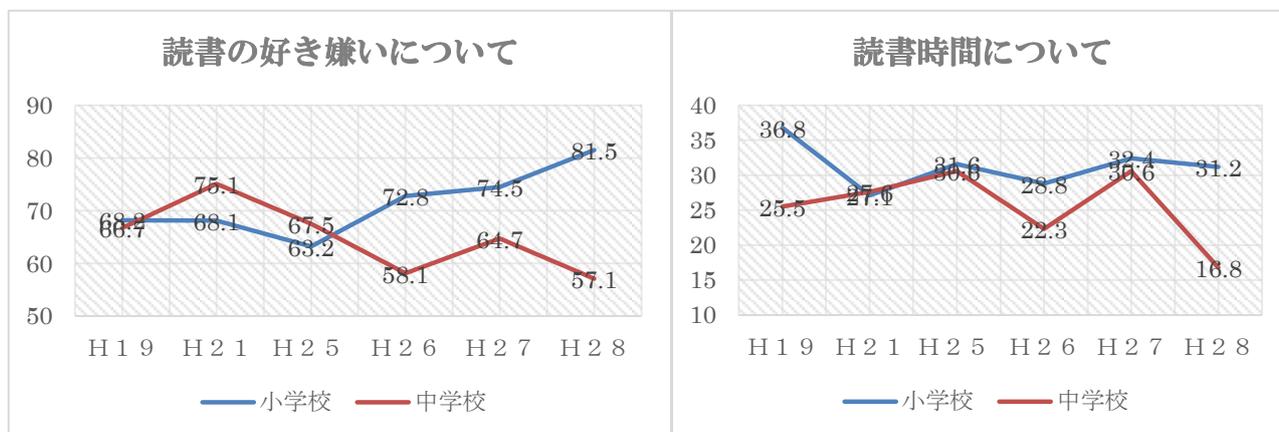


☆授業の最後に学習内容を振り返る活動を計画的に取り入れている学校の割合と、活動をよく行っていると思う児童生徒の割合の推移



- 多くの学校が、授業の中で「目標（めあて・ねらい）を示す活動」を実施しており、年毎に児童生徒の意識も高まり、学校と児童生徒との意識のずれが縮小する傾向にある。
- 授業の最後に「振り返り活動」を実施する小学校と児童との傾向は、上記と同様であるが、中学校では、学校と生徒の意識の差がやや大きい。

③ 【読書活動について】（「3つの町民運動」関連）

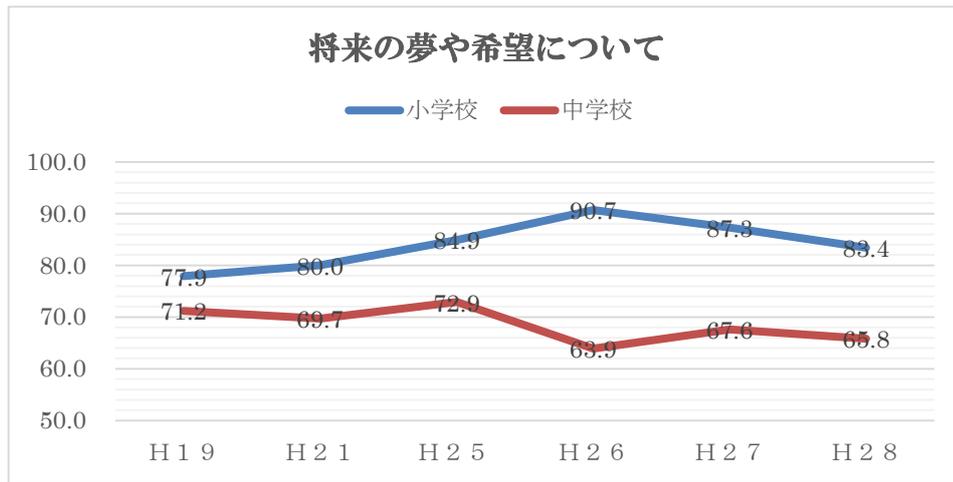


(注) 「読書が好き」の割合の推移

(注) 平日、学校の授業時間以外に30分以上読書する児童・生徒の割合の推移

- 一日当たり、30分以上読書をする児童生徒が多い学校ほど、国語・算数（数学）とも正答率が高い傾向がみられる。
- 読書好きの児童が増加しつつある。また、読書時間についても微増傾向にある。
- 生徒については、顕著な傾向は見られないが、小・中学校とも「3つの町民運動」における「読書」の取組において、一定の成果が現れつつあると考えられる。

④ 【将来の夢や目標について】（キャリア教育推進関連）



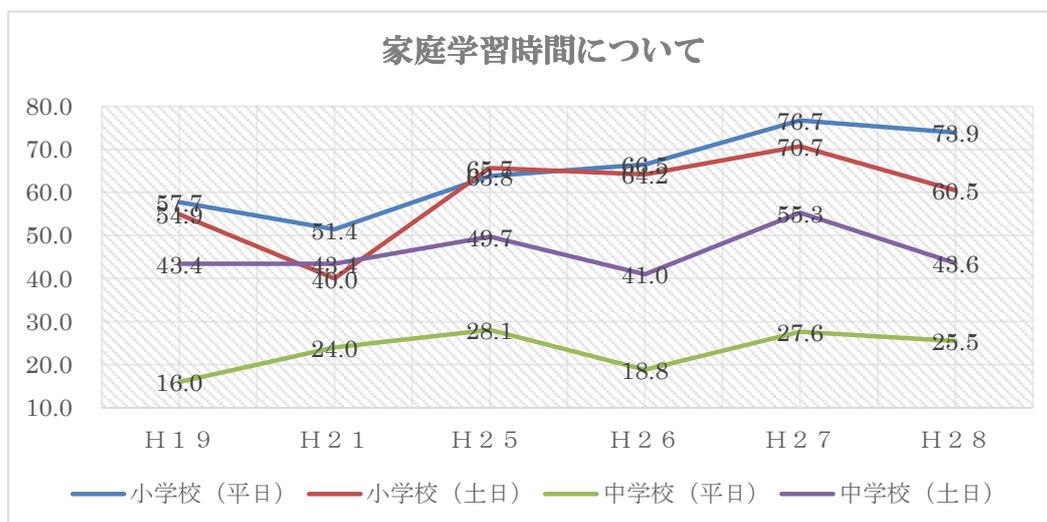
- 「将来の夢や目標を持っていますか。」の問いに対して、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答している割合は、小学校児童では80%台程度で推移している。一方、中学校生徒では70%前後で推移している。
- 今後とも、校種間の連携を図りつつ、キャリア教育の推進体制の整備を図り、子どもたちが、社会の変化を乗り越え、高い志や意欲を持つ自立した人間として、未来を切り拓いていく力を身に付けることができるよう取り組んでいくことが求められる。

（参考）

第2次香美町総合計画における施策指標では…

	平成32年度
小学6年生	95%
中学3年生	80%

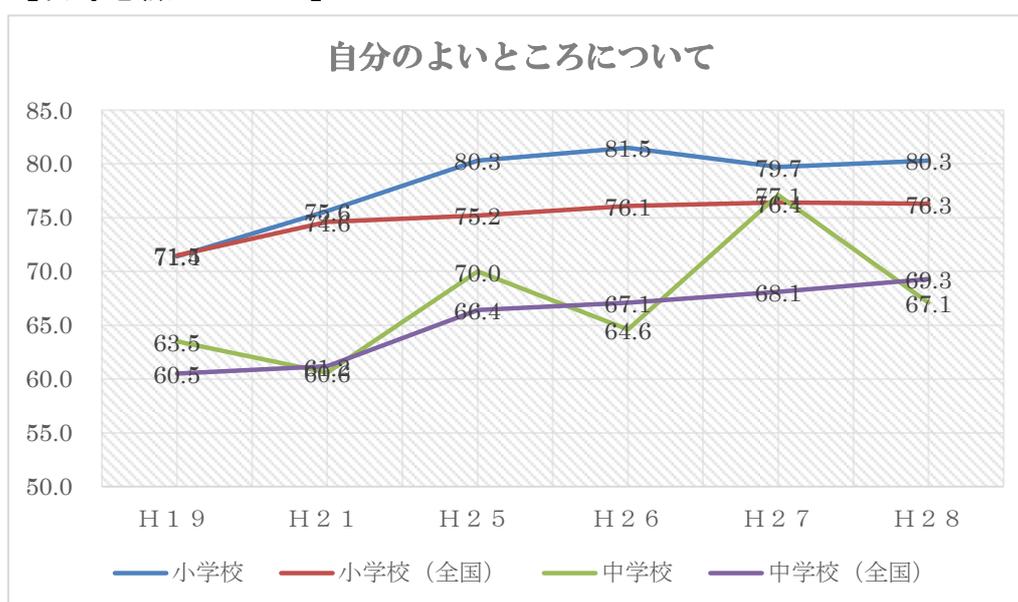
⑤ 【家庭学習について】（キャリア教育推進関連）



（注）児童…1時間以上（平日・土日とも）、生徒…2時間以上（平日・土日とも）

- 家庭学習の習慣が、児童生徒ともに着実に定着しつつある傾向がうかがえる。
- 中学校生徒では、平日の家庭学習時間が「2時間以上」と回答している者の割合が、各年度とも土日に比べて少ない。原因としては、部活動等で学校滞在時間が長く、帰宅後も、その疲労などから家庭学習の時間が十分に確保できていないことなども考えられる。
- 今後とも、キャリア教育推進の取組の一貫として、「家庭学習」の重要性を児童生徒に認識させるとともに、校区内の小学校・中学校が連携しあって取り組むことが大切である。

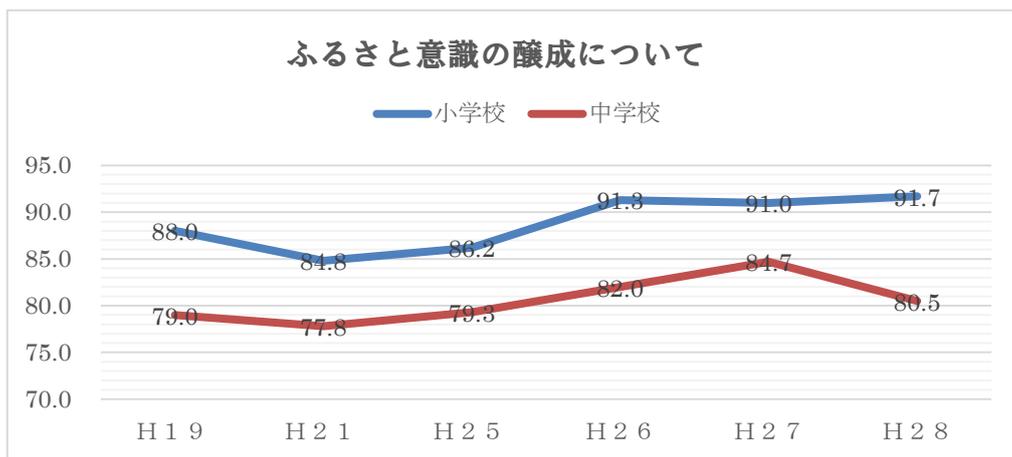
⑥ 【自尊意識について】



- 「自分には、よいところがあると思いますか。」の問いに対して、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答している割合は、小学校児童では80%程度で推移している。一方、中学校生徒では70%前後である。
- 小学校児童に比べて、中学校生徒の割合が低いこと、「どちらかといえば、当てはまらない」、「当てはまらない」などと回答している者が、それぞれ20%、30%程度いることが課題である。
- 授業や学校行事など、様々な機会や場を通して、子どもたちの成功体験を値打ち付けし、達成感や成就感を持たせることが大切である。



⑦ 【ふるさと意識の醸成について】（「ふるさと教育」推進関連）

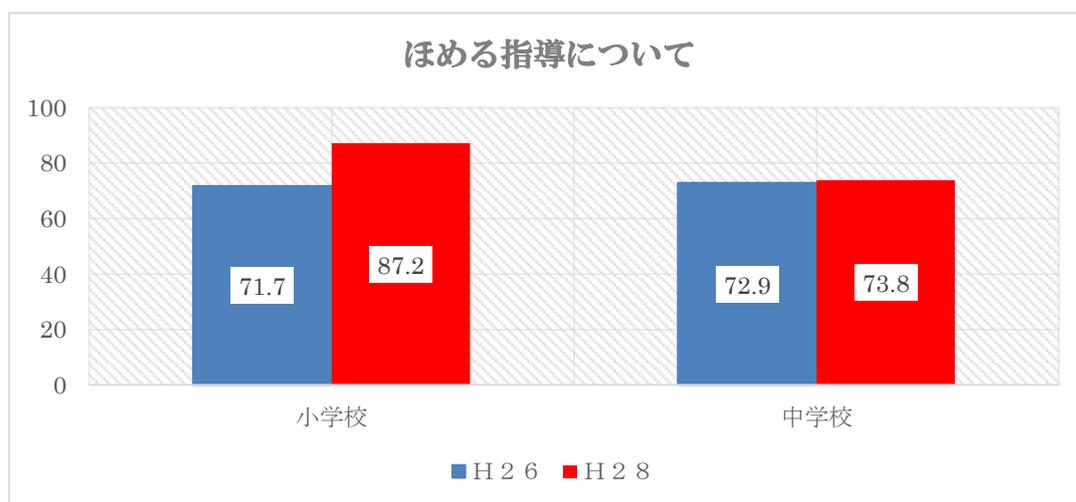


○ 児童生徒とも、「今住んでいる地域の行事に参加していますか。」の問いに対して、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答している割合は、微増傾向にあり、「ふるさと教育」の取組成果が浸透しつつあることがうかがえる。
(参考)

「今住んでいる地域が好きですか。」（平成19年度調査）の問いに対して、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童（小学校6年生）生徒（中学校3年生）の割合は次のとおりである。

児童	生徒
84.8%	73.1%

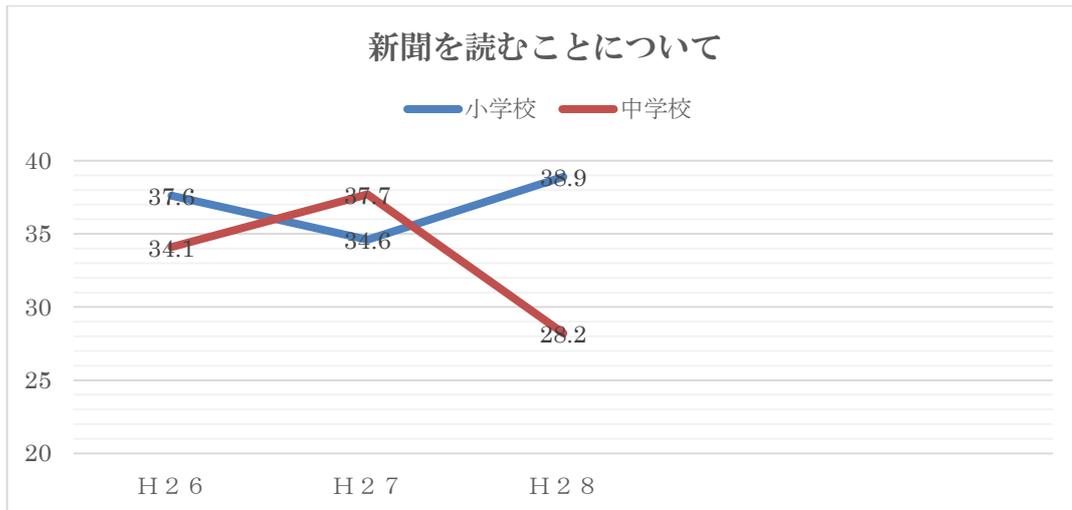
⑧ 【教師が児童生徒のことを認めることについて】（「ほめる指導」「認める指導」関連）



○ 小学校では、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。」と回答している児童の割合は、平成26年度と比べやや高くなっているが、中学校では、大きな変化は見られない。

○ 今後とも、「ほめる指導」、「認める指導」の充実を図り、子どもたちの内発的学習意欲の向上に繋げる取組が求められる。

⑨ 【新聞を読むことについて】（社会に対する興味・関心）



（注）平成25年度は、香美町小・中学校は本質問番号を選択していないためデータなし

- 「毎日読む」、「週に1回～3回読む」を合わせても、過去3年間、いずれも40%に満たない程度である。
- 教科の調査結果とのクロス集計では、新聞をよく読んでいる児童生徒ほど教科の正答率が高い傾向にあり、日常生活の中で新聞の活字に機会あるごとに触れたり、新聞を日々の授業実践の中で活用したりしていくことが求められる。



3 今後の取組の方向性について

【学校では】

○小中連携、小中一貫化教育の取組を通して、交流の質的な高まりを図る。

「小中一貫化教育」の取組において、各中学校区では生徒指導や学習規律などの共有をはじめ、乗り入れ授業、授業を通じた教科の指導法の工夫、小学校6年生の体験入学など、義務教育9年間を見通した様々な取組が推進されつつあります。これらの取組を基盤として、小学校と中学校の更なる連携推進を図り、小学校の教職員と中学校の教職員が、しなやかでお互いを高め合う協働体制を構築し、同じ目線で子どもたちの発達や成長を支えていくことが求められています。

(具体的な取組例)

- * 9年間を見通したキャリア教育、ふるさと教育などのカリキュラムづくり
- * 中学校区を単位とした家庭学習や読書習慣、情報機器利用等のルールづくり
- * 学力・学習状況調査の成果や課題などを各中学校区で共有し、指導方法の工夫改善等に向けた研修会の実施 等

○小規模校ならではの特色を生かした取組をすすめる。

児童生徒の答案の中にみられる誤答パターンにこそ授業改善のヒントがあると考えられます。誤答の傾向から子どもたちがどこでつまづいているのかを発見し、校内研修などを通して全教員で共有し、教科や学年の枠を越えて指導改善の方向を探っていくことが大切です。

(具体的な取組例)

- * 国に発送する答案を複写しておき、夏季休業中などを利用して誤答分析をおこなうなどの研修の実施
- * 学校間スーパー連携チャレンジの機会等における誤答例などを活用した多人数による多様な意見や考え方の練りあいの実施 等

○「学ぶ授業」から「学び合う授業」へ、授業の質的転換を図る。

学びの質を高めていくためには、指導者は児童生徒の教室での事実に関わり、学ぶとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した「アクティブ・ラーニング」の視点を踏まえ、「学ぶ授業」から「学び合う授業」へと授業の質的転換を図ることが肝要です。

(具体的な取組例)

- * 社会的自立に必要な態度や能力を育てるキャリア教育の視点を大切にした授業の実践
- * 子ども同士の協働、教職員や地域の人々との対話などを取り入れた「対話的な学び」のある授業の実践 等

【家庭や地域では】

子どもたちが安心して学びに向かうためには、学校にとって家庭や地域の協力が不可欠です。「家庭はすべての教育の出発点」です。あわせて地域の子どもは地域で育てる機運を盛り上げることも大切です。

学校は、「ホームページ」や「学校だより」等で、様々な情報を発信しています。また、「学校版教育環境会議」やオープンスクール、授業参観などの機会を通して、学校の取組の方向性を理解するとともに、子どもたちの日々の活動の様子を伺い知ることができます。学校・家庭・地域がいっしょになって、次のような取組を実践し、子どもたちを育てようではありませんか。

(具体的な取組例)

- 規律ある生活（早寝、早起き、朝ごはん等）の習慣化
- 家庭学習の習慣化
- 家庭で読書に親しむ環境づくり（「親子で読書」など）
- コンピュータなど情報通信機器利用に関するルールづくり
- 子育て、しつけの中での「ほめる」、「認める」の実践
- 地域行事への参加などを通じた「ふるさと意識」の醸成 等

